

A T （支援技術） 活用実践事例集

郡山養護学校 A T 活用委員会

平成27年10月

小学部

タイトル：「あさのかい スタート!!」「わくわく やすみじかん」

授業者：学部（小学部）名前（ 濱津 有美 ）

【指導場面（領域・教科等）】 自立活動・休み時間									
【単元・題材名】 「あつまれ 5くみ～朝の会～」 「スイッチであそぼう」									
【実態】 （課題となっている点や学習についての簡単な実態） ○教育課程Ⅱ－Cを履修している。快や楽しい時には、笑顔や発声がある。歌や慣れた教師とのふれあいを好む。 ○右手の動きは、受動的反応が主である。しかし、自分が手を動かし働きかけたことで、音になるなどの楽器遊びを昨年度から継続して取り組んできたことで、掌の開閉動作や左右上下の動きがでるようになってきた。目の前に提示されたものに対しては、注視や追視ができる。									
【学習のねらい】 ○教師のガイドを受けて、Qスイッチに注目しながら右手を動かして、朝の会の始めと終わりのあいさつの役割を果たすことができる。 ○休み時間に曲を聴いて、「楽しい。」気持ちを笑顔や発声で表すことができる。									
【使用したAT機器】 ○スーパートーカー ○Qスイッチ（Mサイズ）	<table><tr><td>画像</td><td>スーパートーカー</td><td>Qスイッチ</td><td>本事例使用状態</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	画像	スーパートーカー	Qスイッチ	本事例使用状態				
画像	スーパートーカー	Qスイッチ	本事例使用状態						
									
【その他の配慮事項】 （姿勢・環境の工夫等） ○座位保持いすやクッションチェアに座って取り組む。 ○わずかな動きでもスイッチが入るようにスーパートーカーにQスイッチを付けた状態で使用する。 ○スイッチは、テーブルやボードの右側・本児の手の可動域に滑り止めマットを使用し置き、操作しやすいように固定する。 ○本児が手を動かし、Qスイッチがスーパートーカーから外れてしまわないようにQスイッチの付き具合を確認する。 ○周囲からの視覚情報や音刺激をできるだけ精選する。また、安心して取り組めるように慣れた教室で実践する。									
【指導の実際】 ○手元に注目するために、スイッチに本児の好きなキャラクターのイラストを付けておく。 ○あいさつの声は、身近な教師の声、曲は、本児の好きな「さんぽ」を録音する。 ○スイッチを視覚的に捉えやすい目の前30cm程度の所に提示し、テーブルやボードの右側・本児の手の可動域に滑り止めマットを使用し置く。									

- あいさつの場合は、「あいさつの係お願いします。」や休み時間に曲を聴く場合は、「さんぽの曲、聴きたいなあ〜。」などの言葉かけをする。
- 本児が右手を動かしてスイッチを操作したり、あいさつや曲がなり聴いたりしている時には様子を見守る。
- その後、笑顔や発声の表出が見られた場合は、本児の動かした右手や頬、口の部分に触れて共感的な言葉をかけたり、称賛したりして意欲を高めるようにする。

【成果】

- 目の前にスイッチを提示すると、笑顔になり取り組むことがわかる様子が見られる。
- 教師がスイッチを提示し、テーブルに置き、Qスイッチに本児の手をガイドすると、手元を見て、自分で握り、上下や左右に手を動かしてあいさつ係の役割を果たしたり、曲を流したりすることが確実にになった。
- スイッチとあいさつや曲の関係性については、少しずつわかってきており、あいさつや曲がなると、必ず笑顔や歓声の表出が見られる。今後も継続していきたい。
- 休み時間に、自分で手を動かして好きな曲を聴き、楽しく過ごすことができるようになってきた。
- 本児の手の動きで操作できるQスイッチを付けたスーパートーカーを玩具遊びや光、風遊びなどを通して今後も継続活用していき、生活や活動の幅を拓けていきたい。

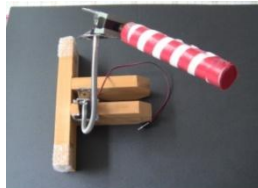
タイトル：「児童会の記録を撮ろう！」

授業者：学部（小学部） 名前（安齋 正明）

【指導場面（領域・教科等）】	
児童会	
【単元・題材名】	
委員会活動	
【実態】（課題となっている点や学習についての簡単な実態）	
・ 本児は児童会の書記になっており、仕事（記録）に対しては意欲的である。	
・ 本児の腕や指先の動きを考慮すると、デジカメでの撮影は難しい。優しくタッチするだけで操作できる方法がよい。	
【学習のねらい】	
・ 書記としての仕事を行うことで、達成感を味わうことができる。	
・ 腕を動かして、スイッチをタッチし、撮影することができる。	
【使用したA T 機器】	
ipad、ユニバーサルアーム、	
【その他の配慮事項】（姿勢・環境の工夫等）	
・ 姿勢を崩さずタブレット（ipad）の画面を見られるように器具（ユニバーサルアーム）を使用し、見やすい位置に固定した。	
・ スムーズに操作できるよう、普段使用してスイッチ（F D ケース）を使用した。	
【指導の実際】	
・ 児童会の様子をタブレット等のA T 機器を使い、腕を動かし、撮影する。	
・ 撮影した写真をみて、達成感を味わう。	
【成果】	
ユニバーサルアームを使用したことで姿勢を崩さず、タブレット（ipad）の画面を確認することができていた。撮影時は意欲的に腕を動かそうという気持ちはみられたが身体に力が入り、緊張してしまうため、教師がスイッチを押せる位置までもっていくと自分で腕を動かし、指先でスイッチを押すことができた。撮影した写真を本人と確認し、「よく撮れたね」と言葉かけをすると「はい」と嬉しそうに応え、達成感を味わうことができた。	

タイトル：「 風、きもちいいなあ～！ 」

授業者：学部（小学部） 名前（宗像 美千恵）

【指導場面（領域・教科等）】 自立活動	
【単元・題材名】 「風あそびをしよう」	
【実態】（課題となっている点や学習についての簡単な実態） 車いすに乗っている時には、スーパートーカーとQスイッチを組み合わせると入力スイッチとし、音声を流して挨拶等のコミュニケーションに取り組んできた。移動して、他者とのコミュニケーションをとることができたり、操作しやすかったりする反面、手元を見ての操作が難しい。 風あそび等の感覚遊びの際にはリラックスして楽しめるよう、側臥位になり棒スイッチで取り組んでいる。側臥位での活動は手元も見やすく、スイッチ操作がしやすい。	
【学習のねらい】 ○自分からスイッチを押し扇風機の電源を入れたり、風が止まったらまたスイッチを押して電源を入れたりして、風と音楽を楽しむことができる。	
【使用したAT機器】 ・ 赤外線リモコン ・ トイケーブル ・ スーパートーカー ・ 棒スイッチ    	
【その他の配慮事項】（姿勢・環境の工夫等） ・ 手が動かしやすいように仰向け姿勢で操作する。 ・ スイッチが押しやすいように腕や肩周りを弛め、腕の可動域が広がってから取り組む。 ・ 本児の腕の可動域の中で見えやすいところにスイッチを置く。 ・ スイッチを入れると録音してある音楽の時間だけ扇風機が回り、本児の好きな風と音楽を同時に楽しむことができる。	
【指導の実際】 ○棒スイッチを押し扇風機の電源を入れ、風を感じる。風が止まったらまたスイッチを押して電源を入れ、風遊びを楽しむ。 ○棒スイッチと扇風機の因果関係がわかりやすいように教師がやって見せてから取り組む。	
【成果】 ○扇風機ばかり見ていたので、やってみてスイッチがあることを知らせると、スイッチをよく見て腕を動かし、電源を入れることができた。音楽が流れるのと一緒に扇風機の風が吹くと笑顔になり、身体を動かして喜んでた。音楽が終わり扇風機も止まると、また腕を動かしてスイッチを押していた。音楽を使用することでより楽しい雰囲気に取り組むことができ、意欲も高まったと思われる。繰り返し、取り組んできているためスイッチと扇風機が直接つながっていなくても、スイッチと扇風機の因果関係がわかり、取り組むことができたと思われる。	

タイトル：「しゃぼんだま、つくろう！」

授業者：学部（ 小学部 ） 名前（ 三浦沙織 ）

【指導場面（領域・教科等）】 自立活動	
【単元・題材名】 しゃぼん玉あそび	
【実態】（課題となっている点や学習についての簡単な実態） ・スイッチ（リトルマック等）は手で押すと音声がかかることが分かっている。 ・スイッチを押すとしゃぼん玉マシンからしゃぼん玉が出てくることが、まだ分かっていない。	
【学習のねらい】 ・スイッチとしゃぼん玉マシンとの関連が分かる。 ・自分からスイッチを押して、しゃぼん玉マシンからしゃぼん玉をとばすことができる。	
【使用したA T機器】 ・赤外線リモコンコンセント ・リトルマック・ジェリービーンスイッチ ※スイッチを押すと、しゃぼん玉マシンが動くように設定した。	
【その他の配慮事項】（姿勢・環境の工夫等） ・手の届くところにスイッチを置く。	
【指導の実際】 ・スイッチとしゃぼん玉マシンが離れていたため、関連が理解できない様子。 ・そこでスイッチを押すとスイッチ本体から音楽が流れ、同時にマシンも動くように設定した。押した本体からアクションがあるのでスイッチを押したということが本人にとって分かりやすくなった。 ・更に、スイッチを押すと一定時間、音楽としゃぼん玉マシンがオンになるように設定した。スイッチを押すとどうなるか見通しが持てるようになり、マシンの動きやしゃぼん玉にも着目できるようになった。繰り返しスイッチを押して遊ぶようになった。	
【成果】 ・（児童）はじめはしゃぼん玉マシンの動作にかかわらずスイッチを押していたが、繰り返し取り組むとしゃぼん玉マシンが止まってからスイッチを押すようになった。 →スイッチとしゃぼん玉マシンの関連が分かるようになってきた。 ・（教師）スイッチを押した後、音楽としゃぼん玉マシンが連動して始まったり止まったりするようにしたことで、スイッチの意味や活動の終わりが分かりやすくなった。 →児童に分かりやすい教材の提示をすることができた。	

タイトル：「朝の会をしよう」

授業者：学部（小学部）

名前（遠宮 仁子）

【指導場面（領域・教科等）】 自立活動	
【単元・題材名】 「元気にスタート」～朝の会～	
【実態】 ・朝の会では、教師のかかわりに視線を向けたり、自分の近くにある興味あるものに手を伸ばしたりすることができる。 ・好きな人の写真カードやタングリンを目の前に提示されると手を伸ばしてたたくことができる。 ・電気のスイッチに興味があり、たたいて電気をつけるようになった。	
【学習のねらい】 ・スイッチを自分から押して、朝の会の始めとおわりのあいさつをすることができる。	
【使用したAT機器】 ・ステップバイステップ ウィズレベルズ	
【その他の配慮事項】（姿勢・環境の工夫等） ・本児が見やすく、手を伸ばしやすい位置にスイッチを提示する。 ・スイッチの色を、本児が興味を持ってよく見る青色にする。	
【指導の実際】 ・「これから朝の会を始めます。」「これで朝の会を終わります。」と録音したスイッチをあいさつの場面で本児に提示する。	
【成果】 ・スイッチを提示されると手を伸ばしてたたくことができた。そこで、スイッチを離れたところから提示すると、視線を向けてスイッチを触ろうと手を伸ばして待つ姿が見られるようになった。近づいてくるスイッチを押すことができると、目を輝かせて笑顔になるので、様々な場面でこれからスイッチを使用することができるのではないかとと思われる。 ・電気のスイッチが好きでたたいていたこともあり、あいさつのスイッチも喜んでたたくことができた。好きでたたくだけでなく、会の始まりや終わりが分かってたたくことができるように支援していきたい。 ・スイッチが押されて流れる言葉を興味深く聞き、始まりや終わりを意識している友達がいるので、学級にもいい影響を与えている。	

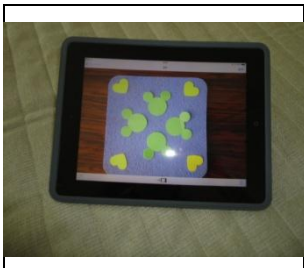
タイトル：「 なんだっけ？ 」

授業者：学部（ 小 ） 名前（ 佐久間 寛子 ）

【指導場面（領域・教科等）】 日常生活の指導	
【単元・題材名】 朝の活動	
【実態】 （課題となっている点や学習についての簡単な実態） ・ 友だち大好き。友だちが何をするのか知りたい。 ・ 写真やビデオを見ることに慣れている。	
【学習のねらい】 登校時や前日までの学習で、見た物を写真や動画で確認したり振り返ったりする。	
【使用したA T機器】 iPad（カメラと写真）	
【その他の配慮事項】 （姿勢・環境の工夫等） 登校時など、本人がじっくり見ている物を写真に撮る。 学習中じっくりと見ている物や取り組んでいる様子なども、写真や動画に撮る。	
【指導の実際】 ・ 毎日、朝の活動に iPad を見る時間を設定する（15分程度）。 ・ 写真をめくる動きが難しいときには、教師と一緒にめくる動きを行うようにする。 ・ 写真以外のアプリなどが表示されて困ったときには、教師を呼ぶことができるように伝えていく。	
【成果】 ・ 写真や動画で振り返ることにより、登校時の校内探索が減った。「この友だちはどこの学級に行く」という見通しも持てたようで、友だちの移動をずっと追いかけていくことも少なくなった。 ・ 荷物の整理とトイレが終わったら iPad ができる、という流れを理解し iPad を見るまでの活動に自分から取り組むことができるようになった。 ・ 写真をめくる動きに慣れて、スムーズに写真を見ることができるようになった。 ・ 困ったときには「ンー！」のような声で伝えることもできつつある。	

タイトル：「ipadを見て確認しながら進めよう」

授業者：学部（小学部） 名前（佐藤三喜子）

【指導場面（領域・教科等）】 自立活動	
【単元・題材名】 プレゼントを作ろう	
【実態】（課題となっている点や学習についての簡単な実態） ・ 目（視線、まばたき）の動き、表情、口、舌の動き、手をぴくつかせるなどで、自分の気持ちを伝えることができる。	
【学習のねらい】 ・ 3種類の見本のコースターの中から、好きな模様、配置のコースターを目や口の動き、表情で伝えて選ぶことができる。	
【使用したA T 機器】 i p a d	
【その他の配慮事項】（姿勢・環境の工夫等） ・ ベッドに横になっての学習なので、i p a dを本児の見やすい向き、距離等を考えて使用する。	
【指導の実際】 ・ コースターの色や模様、配置を考える。 ・ トントン棒で模様に合わせて色を付ける。 ・ ニスを塗る ・ ラッピングをする	
【成果】 ・ i p a dを使い視覚的に見本を見せることで、見本をじっくりと見ることができ、その中で、目の動きの一番大きかったものを、本児が選んだと考え、「これだね」と確認して進めることができた。 ・ 自分がトントン棒で色を付けているところは見えないので、途中で出来上がり具合をi p a dで見せて確認してから次の工程に進めることができた。	

タイトル：「うたをきこう」

授業者：学部（ 小学部 ） 名前（ 薄 智子 ）

【指導場面（領域・教科等）】 自立活動	
【単元・題材名】 「スイッチをおしてみよう」	
【実態】（課題となっている点や学習についての簡単な実態） ・手や腕の可動域は狭いが、自分で動かして触ろうとする意欲がある。 ・音が鳴ると喜ぶ。 ・歌が好き。	
【学習のねらい】 ・自分から手を動かしてスイッチを押すことができる。 ・好きな歌を聞き、止まったら自分でもう一度押すことができる。	
【使用したAT機器】 ・ビック・ステップ・バイ・ステップ	
【その他の配慮事項】（姿勢・環境の工夫等） ・胸の下にマットを敷き、うつ伏せになることで、手を動かしやすくする。又は、プロン台を活用する。 ・スイッチは、押しやすい位置・手を離しやすい位置に置く。	
【指導の実際】 ・はじめは、偶然にスイッチを触って音楽が流れ、不思議そうな顔をしていたが、徐々に押すと音楽が流れるということに気づき始めた。 ・音楽が流れると笑顔が見られ、音楽が終わると、また自分から手を動かして押すことができた。	
【成果】 ・スイッチを押すと、音楽が流れることを理解することができた。 ・自分の手を動かすことで、音楽が聞けるという喜びを感じることができた。 ・スイッチだけでなく、手を動かすことで楽しむことができることが増えてきた。 （楽器・おもちゃ・こうさく時の筆）	

タイトル：「 おもちゃであそぼう！ 」

授業者：学部（ 小 ） 名前（ 中島 裕子 ）

【指導場面（領域・教科等）】 毎日午前中（自立活動）	
【単元・題材名】 「おもちゃであそぼう！」	
【実態】（課題となっている点や学習についての簡単な実態） ○現在は、「あぐら座位を保持すること」と、「あぐら座位を保持しながら上肢を使うこと」を練習中。 ○上肢を使うことは上手であるが、さらに上体を起こして上肢が使うことができれば、活動の幅も広がるのではないかと考えています。 ○楽しい気持ちであぐら座位の保持や上肢を使う経験ができれば、座位保持への意欲と効果が高まるのではないかと考えています。	
【学習のねらい】 ○楽しみながら自分で座位を保持する経験を積み重ねる。 ○座位を保持したまま、好きな玩具を操作するなど上肢を動かすことができる。	
【使用した A T 機器】 チープトーク 8	
【その他の配慮事項】（姿勢・環境の工夫等） ・ふわふわクッションを足と手の間にはさむことで上体を起こしやすくしています。また、そのクッションの高さはその日の体調などに応じて変化させることができるようにしています。 ・はじめに腰の位置を確認したり、背中ができるだけまっすぐになるようにポインティングしたりして姿勢を整えてから活動を始めるようにしています。 ・SRC 歩行器で歩き、股関節の動きが良くなってからこの活動をするようにしています。 ・チープトーク 8 には、8 種類の音声を録音可能なので、本児の好きな歌を録音しています。	
【指導の実際】 ・A 君は歌が好きなので、チープトーク 8 には、本児の好きな歌を 8 種類録音しています。 ・本児がチープトークに興味をもったときに行っています。	
【成果】 本児の好きな曲を 8 種類録音してあるため、集中して意欲的に活動しています。自分からチープトーク 8 に向かってずり這いする姿も多く見られます。15～20 分ほど継続してあぐら座位を保持し、チープトーク 8 を操作して遊ぶことができます。 姿勢が崩れるときには、腰や背中をまっすぐになるように支援することで修正することができます。今後は、徐々にクッションではなくテーブルなどを使ったあぐら座位へ移行していきたいと思っています。 また、得意になったチープトーク 8 の操作を別の場面でも生かしていきたいと思っています。	

タイトル：「よくみよう、よくきこう」

授業者：学部（小学部）名前（小林 由美）

【指導場面（領域・教科等）】 訪問授業、校外学習 自立活動	
【単元・題材名】 校外学習に行こう	
【実態】 （課題となっている点や学習についての簡単な実態） ○訪問学級の児童で6年生、自立活動を主とした学習を履修している。 ○週に3回、訪問での授業を行っている。（そのうちの1時間のみ、担当している。） ○年に数回、スクーリングで登校することもある。 ○ベッドの上で横になっている時間がほとんどであり、自分で姿勢を変えることも難しい。 ○本人の反応が微細であり、やりとりを深めることはまだ難しい状況にある。	
【学習のねらい】 ◎提示された物や教師の働きかけに対して、顔の一部を動かすなどして応え、やりとりすることができる。	
【使用したA T 機器】 ○ipad	使用した A T 機器の画像
【その他の配慮事項】 （姿勢・環境の工夫等） ○ベッド上には、さまざまな医療機器があるため配慮しながらも、本人の見えやすい位置、角度に設置する。	
【指導の実際】 ○校外学習に参加し抹茶体験をした。その際、自分の位置からは見ることができない物が多くあったが、教師が撮影しそれをベッド上ですぐに再生し、見せることができた。 ○ほぼベッドの上で過ごしている本人にとって、部屋または天井以外の物を見ることが少ない。そのため教師が訪問する前に、外の様子（空や雲、草花）を撮影し、本人に見せることができた。	
【成果】 ○自分の位置からは見ることができないものを、すぐにその場で見たり、聴いたりすることで、意欲も向上しているように感じる。 ○教師や保護者からのさまざまな働きかけに応じて、目を動かす、唇を動かすなど多くの反応をし、やりとりをする場面が多くできている。	

タイトル：「 おしごとをしよう ～みんなげんき～」

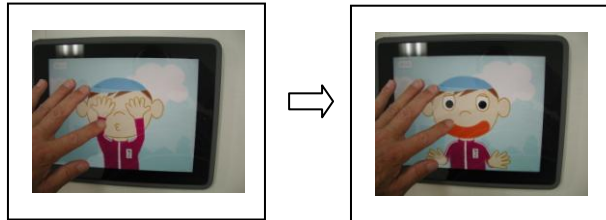
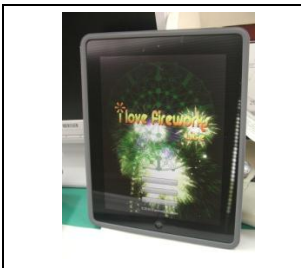
授業者：学部（小）

名前（ 三瓶 史子 ）

【指導場面（領域・教科等）】 自立活動	
【単元・題材名】 みんなでおしごと	
【実態】（課題となっている点や学習についての簡単な実態） ・音の鳴る玩具を好み、操作すると笑顔になったり姿勢が起きたりして楽しく過ごせる。 ・玩具の音や人の声などに注意を向け、よく聴いている。 ・「おはよう。」や「はい。」「いいえ。」などの言葉に乗せて手ばたきをし、身近な人とのやりとりを楽しむことができる。	
【学習のねらい】 ・ステップバイステップを操作して鳴らし、学級の出欠状況「みんなげんきです。」や学級の予定や出来事「きょうは、シーツブランコをします。」などを、身近な人に伝える役割をする。 ・伝えた内容をきっかけとして、身近な人とやりとりして親しむ。	
【使用したＡＴ機器】 ・ステップバイステップウィズレベル	
【その他の配慮事項】（姿勢・環境の工夫等） ・操作しやすいよう、ステップバイステップの下に滑り止めシートを敷く。 ・どこに置くか知らせる。また、操作しやすい位置に置く。 ・場面を絞って扱い、役割意識がもてるようにする。	
【指導の実際】 ・学級３名の児童で役割を分担し、健康観察簿を保健室に届ける。 ・ステップバイステップに、今日の出欠状況や学級の様子を録音する。 ・ステップバイステップを操作して鳴らし、保健室に移動する間に会った教師や友だち、保健室では養護教諭に今日の出欠状況や学級の様子を伝える。	
【成果】 ・録音スイッチの操作音を聞くと、ステップバイステップの用意をしていることが分かり、姿勢を起こしたり笑顔見られたりする。 ・「保健室に行くよ。」「お仕事をしてね。」と話しかけると、自分の役目が分かり、姿勢を起こしたり笑顔が見られたりする。 ・録音した内容をもとに、身近な人とやりとりができ、親しくなるきっかけとすることができた。	

タイトル：「ipad のコンテンツで手の動きを増やす」

授業者：学部（小学部） 名前（ 神尾英城 ）

【指導場面（領域・教科等）】 自立活動	
【単元・題材名】 「いっしょにおんがく」	
【実態】（課題となっている点や学習についての簡単な実態） 手を使った活動を促進したいが、遊具は操作が難しくて、関心があっても手を出しにくいところがある。	
【学習のねらい】 ・ 提示されたものを注視したり、音楽を聴いたりしながら動きを止めたり、笑顔になったりして取り組むことができる。 ・ 手を触れると、画像や音の変化が起こることが分かり、自ら手を出そうとする。	
【使用した A T 機器】 ipad	
【その他の配慮事項】（姿勢・環境の工夫等） ・ ipad を児童が見やすかったり、操作しやすかったりするところに配置する。	
【指導の実際】 ・ 児童に、ipad で操作できる楽器やゲームなど、数種類のコンテンツを紹介して、個別に関心を確認めた。 ・ 関心を示したコンテンツについて、指導者が操作して見せたり、児童と一緒に操作したりした。 ・ 児童の自主的な手の動きが見られた場合は、児童の動きに合わせて ipad の位置を調整して、操作によって画面の内容が変化する経験を増やした。	
【成果】 ・ 「iLoveFireworksLite/打ち上げ花火」や「いないいないばあ～0才から遊べる」で、よく画面を見るようになったり、笑顔や笑い声が増えたりした。また、意図的な操作と思われる手の動かし方や、明らかに意図的であるそれが多くなった。	

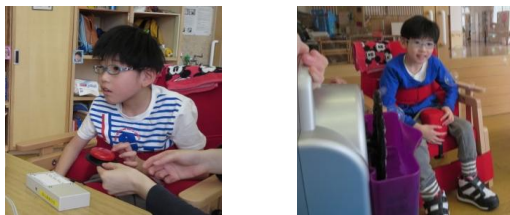
タイトル：「 i P a d を介して友達と仲良く遊ぼう 」

授業者：学部（ 小学部 ） 名前（ 安藤 末希 ）

【指導場面（領域・教科等）】 生活単元学習 等	
【単元・題材名】 「仲良くなろう」	
【実態】 （課題となっている点や学習についての簡単な実態） ・友達同士で何かを共有して遊んでほしいが、友達にどのように接して良いか分からず、自分だけで、又は教師と遊ぼうとしてしまいやすい。友達は好きで、友達が遊んでいることやものに興味はある。 ・興味があるものややりたいものは、良く見て操作することができる。	
【学習のねらい】 ・友達同士で同じ動画を見聞きしたり、同じアプリで遊んだりすることができる。 ・操作したいものを良く見て、自分で人差し指で操作することができる。 ・困った時は、教師に助けを求めることができる。	
【使用したA T 機器】 ・ i P a d	
【その他の配慮事項】 （姿勢・環境の工夫等） ・学習中の自由遊びの場面や休み時間には、子どもたちが自分で手にとりやすい場所に i P a d を置く。 ・姿勢に応じて、マットの上や机の上に提示する。	
【指導の実際】 ・教師が色々なアプリの使い方や操作の仕方の見本を示して、一緒に遊ぶ。 ・遊んでいない児童が興味をもったら、一緒に遊ぶように誘う。 ・友達同士で遊ぶことができるようになったら、教師は見守るようにする。	
【成果】 ・アプリが立ち上がるまで、アイコンを良く見て操作できるようになった。自分たちで操作できるようになったことで、教師を介さなくても、アプリから、自分たちで「ゴ・ゴ・ゴリラ」「NEWあいうえお教室」「Awesome Xylophone（木琴）」を選び、動画や曲と一緒に見聞きしたり、操作して音などを出したりするようになった。 ・木琴のアプリを好み、自分で曲を弾こうと練習するようになった児童もいる。 ・教師の動きを見て、他のアプリが作動した場合は、自分でホームボタンを押すようになった。音がでないなど、自分では対処できない時は、教師のそばに来たり声を出したりして i P a d を指差して、助けを求める様子が見られるようになった。	

タイトル：「僕も、しゃぼん玉作れるよ！」

授業者：学部（ 小学部 ） 名前（ 山尾 加奈子 ）

【指導場面（領域・教科等）】 自立活動		
【単元・題材名】 「しゃぼん玉遊びをしよう」		
【実態】 （課題となっている点や学習についての簡単な実態） ・自分から周囲に働きかけることは少ないが、興味のある感触の物や玩具には手を伸ばして、触れたり動かしたりすることもある。 ・昨年度より、ボタンスイッチを使用した学習を積み重ねてきた。ボタンスイッチを手元に準備すると、自分から指を開いて、手のひら全体で押すことができるようになってきた。 ・これまでの経験から、ボタンスイッチと玩具の因果関係を理解してきており、手元のボタンスイッチと玩具を見比べる姿も見られるようになってきている。		
【学習のねらい】 ・自分から指を開いて、ボタンスイッチを押すことができる。 ・しゃぼん玉を注視したり追試したりすることができる。 ・しゃぼん玉を見て、笑顔や発声で気持ちを表現することができる。		
【使用したＡＴ機器】   ・ジェリービーンスイッチ ・赤外線リモコン&リモコンコンセント		
【その他の配慮事項】 （姿勢・環境の工夫等） ・スイッチは固定にせず、本児の左手付近に教師が準備しておくようにする。 ・スイッチを押す動きが見られない場合には、指先にスイッチを触れさせて手元にスイッチがあることに気づけるようにしたり、左肘を支えて動きを引き出したりする。		
【指導の実際】 （１）ボタンスイッチを押すとしゃぼん玉機が動くことが分かるように、初めに教師がやって見せる。 （２）ジェリービーンスイッチを見せてから、本児の左手付近にスイッチを置き、本児の動きを待つ。押す動きが見られない場合には、スイッチを指先に触れるようにしたり、左肘を支えたりすることで、動きを引き出す。 （３）スイッチを押して電動しゃぼん玉機を動かし、しゃぼん玉遊びを行う。		
【成果】 ○自分からスイッチを押すことができた。スイッチを押すことに時間がかかるときでも、本児の動きをじっくり待っていると、自分から指を開いて押すことが確実になってきた。 ○一度スイッチを押すことができると、連続で何回も押すことが増えてきた。 ○何度か繰り返し取り組むと、スイッチとしゃぼん玉機の因果関係に気づき、手元のス		

イチとしゃぼん玉を見比べる姿が見られた。

○しゃぼん玉機から連続して出てくるしゃぼん玉を、笑顔で注目したり、動きを目で追ったりすることができた。

○教師がしゃぼん玉遊びの準備をしている様子に笑顔で視線を向け、期待感を表していた。

タイトル：「 i p a dを使って手を動かそう 」

授業者：学部（ 小学部 ） 名前（佐藤 淳子 ）

【指導場面（領域・教科等）】 自立活動	
【単元・題材名】 手を動かそう	
【実態】 （課題となっている点や学習についての簡単な実態） ・物に手を伸ばし、テーブルから落として遊ぶことができる。 ・全身の緊張が強いため時間はかかるが、スイッチに手を伸ばして押すことができる。	
【学習のねらい】 ・手を意識して自分で動かすことを増やしたい。 ・聴覚優位のため、i p a dから出る音を聞くことを手がかりに学習に取り組めるようにする。	
【使用したA T機器】 i p a d	
【その他の配慮事項】 （姿勢・環境の工夫等） ・学習のはじめに、手を動かしやすいように手の体操を行ってからi p a dを使うようにした。 ・視線を向けやすく、また、手を動かしやすいように側臥位で行うようにした。	
【指導の実際】 ・花火、カメラ、シロフォン、おしりたんてい、犬や猫が声を返すもの等のアプリを教師と一緒にいった。まず教師がやって見せ、次に一緒に行い、そしてi p a dを提示して児童の自分からの動きを待つことを繰り返し行った。	
【成果】 ・画面を見て、自分で手を動かして触り、音を聞くことができるようになってきた。 ・カメラのアプリでは、画面に友達が映ると手をよく動かしてさわるようになってきた。 ・声を出すと、猫や犬が同じように繰り返すものを気に入り、自分から声を出してi p a dから返ってくる声を聞いて笑顔を見せたり、何度もi p a dに向かって自分から声を出すことが増えてきた。	

高等部

タイトル：「棒スイッチでミキサーをかけよう（作業紙工班）」

授業者：学部（高等部） 名前（ 横山 佳子 ）

【指導場面（領域・教科等）】 ◎作業紙工班 （牛乳パックパルプを加工して廃油吸い取り製品を作る）	
【単元・題材名】 ◎タイマーに合わせてミキサーをかけよう。	
【実態】（課題となっている点や学習についての簡単な実態） ○優しく穏やかな性格。作業は好きで、教師とかかわりながら集中して同じ作業を行うことができる。反面、教師の目が離れると指示と違う行動に移ったり、こだわった部分に固執して作業が進まなくなったりすることがある。小さな摘みを手で回すことは難しい。 ○考えや意見は持っているが、言葉で伝えることは難しい。表情が豊かなため気持ちや感情を読み取りやすい。 ○作業手順を理解できる。その日の目標（例：水をこぼさない）を意識した行動（ゆっくり動く）ができる。目標内容は2択か3択で手を上げて決定している。	
【学習のねらい】 ○棒スイッチの動作設定の違いを理解して、指示された通りにミキサーのスイッチを入れ、タイマーが鳴ったら止めることができる。 ○棒スイッチを手で押したまま一定時間（20秒～30秒）静止することができる。 ○自分が操作し易い棒スイッチの場所・向き・設置位置を教師に伝えることができる。	
【使用したAT機器】 ◎赤外線リモコンコンセント+棒スイッチ。 →2種類の設定を使用 ①押すごとにON・OFFが切り替わる。 ②押している間はON。離すとOFF。	ここで①②を切り替える  赤外線リモコンコンセントのセット  内部
【その他の配慮事項】（姿勢・環境の工夫等） ○棒スイッチなどの作業用道具の設置位置を話し合っ一緒に決める。立位で作業を行う。	
【指導の実際】 ○初めは一定時間押し続ける動作が難しかったが、手を取って数を数えながら行ったところ、徐々に手を動かさないで一定時間押し続けることができるようになった。	
【成果】 ○ミキサーなどの本体にある摘みを回したりスイッチを押せない生徒は多い。しかし、その生徒が赤外線リモコンコンセントと棒スイッチを使用することで、家電品等の機械操作が可能になる。また、スイッチの形状（ピンスイッチなど）や設定方法を変更することで、さらなる目標がねらえるようになった。できた時には生徒の嬉しい笑顔を何度も見る事ができた。	

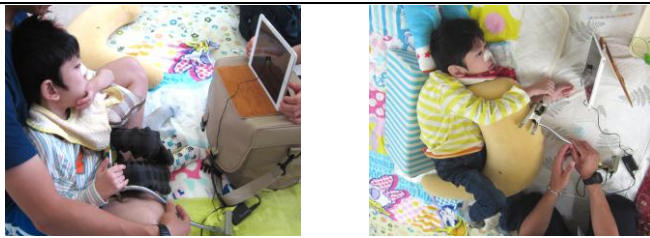
タイトル：「 朝の会の司会スイッチ 」

授業者：学部（高等部） 名前（ 菱沼 郁子 ）

【指導場面（領域・教科等）】 日常生活の指導	
【単元・題材名】 「朝の会」	
【実態】（課題となっている点や学習についての簡単な実態） ・発語が少なく、文章を読むことは難しい。 ・「朝の会」で司会をする際、教師の言葉を聞いているだけになってしまうことが多く、自分で進行しているという自覚を持ちにくい。	
【学習のねらい】 ・自分が朝の会を進行しているという自覚をもちながら、ビッグステップバイステップを押し、朝の会の進行をすることができる。	
【使用したA T機器】 ・ビッグステップバイステップ	
【その他の配慮事項】（姿勢・環境の工夫等） ・朝の会の流れをわかりやすいものにする。 ・教師が、対象生徒に押すタイミングを明確に伝える。 ・対象生徒がスイッチを押し、音声が出たら、対象生徒以外の生徒と教師はその音声に従って行動する。対象生徒は、自分がスイッチを押して音声 flowed ことで、会が進んでいるという関係を感じることができるようにする。	
【指導の実際】 ・始めは、押すタイミングでステップバイステップを対象生徒の前に「どーぞ」と言いながら提示し、押すように促す。 ・押すことに慣れてきたら、ステップバイステップを生徒の手の届く位置に置き、教師の「どーぞ」の言葉掛けを受けて、自分で押すことができるようにする。	
【成果】 初めは、スイッチを自分の好きなタイミングで押したり、2・3回続けて押してしまうことがあったが、自分がスイッチを押し、音声が出ることで、友だちや教師が行動するという関係を理解すると、1つの項目が終わり、教師が「どーぞ」と言葉掛けをするのを受けて、タイミングよく押し、朝の会の進行をすることができるようになった。	

タイトル：「 スイッチを入れてみよう 」

授業者：学部（ 高等部 ） 名前（ 金澤 幸 ）

【指導場面（領域・教科等）】 ⅡC 自立活動		
【单元・題材名】 「iPad で遊ぼう」		
【実態】（課題となっている点や学習についての簡単な実態） ・ 人との関わり(抱っこ)が好きで、自ら興味のある物や人に関わりを求める際に視線や声・手脚など身体全体を使ってアピールし思いを伝えることができる。 ・ 医療的ケアを受けているが、体調の良い日は集中することで活動を継続することができる。 ・ 今年度より iPad を購入し、学習活動においてコミュニケーションや余暇活動の充実に活用していけるよう、スイッチを活用し試行錯誤しながら取り組んでいる。 ・ 手の大きさや不随意運動を考慮し、棒スイッチ等の教材の位置や素材等の工夫は必要だが、繰り返し学習に取り組むことで抵抗なく行えるようになった。 ・ 賑やかな活動を好み、音が鳴ったり色が鮮やかなアプリを使用したりすることで注視する時間が長くなってきている。		
【学習のねらい】 ・ 自らの意志で棒スイッチを動かすことができる。 ・ iPad を注視し、画面や曲の変化が分かる。 ・ 活動を通し、表情や発声・身体の動き等で自らの気持ちを相手に伝えることができる。		
【使用したAT機器】 ① iPad ② 棒スイッチ ③ iPad タッチャー	① 	②  ③ 
【その他の配慮事項】（姿勢・環境の工夫等） ・ 本児の姿勢に合わせてスイッチの角度を調節し、握らせるようにする。 ・ 自発的な動きが見られない場合は教員と一緒に取り組み、その後の活動に繋がるようにする。		
【指導の実際】 1. iPad 等を提示し、活動に期待感を持たせる。 2. 座位(体調によっては側臥位)の姿勢をつくり、iPad 等の場所や角度を調節する。 3. 本児がスイッチを動かすのを待ってアプリ内のゲームを行う。この際、自発的な動きが見られない場合には繰り返し言葉かけを行い、一緒に取り組む。		
【成果】 ・ 同じアプリやスイッチを使用し、繰り返し学習を積み重ねることでスイッチと iPad の関係性を理解し、自ら積極的に手を動かすことが多くなった。 ・ 姿勢に応じてスイッチの位置や角度・持ち手の太さを工夫したことで握りやすくなり、自ら握ったり放したりするなど本児のタイミングで動かすことができた。 ・ 同じ流れで活動を積み重ねることで見通しが持ちやすくなり「やりたい」「やりたくない」等の意志を、身振りや表情ではっきりと伝えるようになってきた。 ・ 自ら操作することで iPad を注視する時間が長くなっている。		

